けましたが、其面影を忍んでは悲しき思出の、追懐に耽て居ります。

故大下藤次郎氏に捧げられたる弔辭

大下氏死去の報傳はると共に生前知遇を辱うした諸兄又は諸團體から懇篤なる弔辭の御寄贈に接しました一々本誌に掲げて御好意に答へる筈でありますが遺憾ながら紙數が許しませんから左に芳名を掲げて謝意を表して置きます。（次第不同）

目白僧園十善會　太平洋畫會
明石潮畫會　日本金工協會
日本水彩畫研究所生徒　河合新藏君

短歌九首

奥村　博

うつむきてしほれかゝりしダーリアよ
　我が師の死をば汝も悲しむや
逝きし師を思ふ悲しさやるせなさ
　のきには冷き秋雨の降る
雜司ヶ谷の森なつかしや師のみたま
　在すと思へばなつかしきかな
此夕べ師の墓標をばくりかへし
　くりかへし讀み又も涙す

逝きし師をおくらんが爲夜の汽車に
　乘りて都に向ふ悲しさ
ひとり師のみ墓に行きてハモニカを
　吹くがことさらうれしきかなや
栗の實をくひつぶしつゝ逝きし師を
　思へりいつか涙こぼるゝ
おそ秋の淋しき畫をおくつきに
　ひとり悲しむ吾を思へ師よ
師のみたまとはに安かれと此日頃
　線香の香に親しみてあり